

令和2年度当初予算（総額777億9,096万円）、 令和元年度補正予算（総額31億3,198万5千円）を可決

3月
定例会

令和2年第2回3月定例会は2月25日から3月19日まで開催され、議案37件及び報告1件を審議し、最終日には、議案などの採決を行いました。

また、4会派の代表者が代表質問を、議員10人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に4ページから9ページに掲載しています。



自民クラブ

堀江 幸 二議員



- 1 (代表質問) 持続可能な自治体経営の実現に対する市長の所信について
- 2 令和2年度の予算編成について
- 3 新型コロナウイルスについて

ワクワク度日本一のまち
市政に対する市長の決意は

問

第2期西条市総合計画
後期基本計画において、

市の未来予想及び直面する重要課題をどう捉えているのか。また、市長は任期最終年である今年を「大きくジャンプする一年」と位置付けているが、市政にどう関わっていくのか。

答

令和元年度に策定した後期基本計画には未来

予想の考え方を取り入れており、将来、本市においても、人口減少・少子高齢化による

負の影響が進行し、高齢者福祉、学校教育、地域社会、産業の分野で大きな影響を引き起こすことが明らかとなった。

このような中、計画期間となる令和6年度末までの達成

目標に「みんなで実現しよう！持続可能な西条市（西条市SDGsの推進）」を掲げ、

優先的に取り組むべき目標として「健康寿命の延伸」「働き

がいの創出・経済活力の維持」「経営感覚のある行財政運営

の実践」の3点を設定した。

今後の自治体経営については、将来世代に過度な負担を

残すことがないよう施策の優先順位を付けつつも、委縮す

ることなく「勝ち残るまち西条」の実現を目指して邁進す

るとともに、市民の皆様が本市の未来に可能性を感じるこ

とができるよう、現在も積み残されている地域課題に正面

から立ち向かう姿勢を貫き、日々覚悟を持って任期を全う

していく所存である。

公共下水道事業

持続可能な経営の確保を！

問

平成30年度決算額にお

いて、企業会計も含め846億円の借金を抱える中、将来的な人口減少を考慮し、合併浄化槽導入への切り替えを図るなど、事業計画や工事区域の見直し及び料金改定についてどのように考えるか。

答

生活環境の改善及び公

共用水域の水質保全のため、公共下水道事業を推進

しているところであるが、現在の下水道処理人口普及率は

58・4パーセント、汚水未整備区域は約411ヘクタールであ

る。令和2年度の予定整備面積16ヘクタールを基に単純計

算すると、事業計画区域の整備完了までには約26年の長期

間を要すると想定している。

また、人口減少に伴う使用

料の減収や施設の老朽化に伴う改築更新・維持管理費の増

加が見込まれ、事業計画区域内における未整備区域全域の



公共下水道事業で運営されている西条浄化センター

市民の意向などを考慮し、事業計画の見直しにより整備区域を縮小し、公共下水道による集合処理、合併浄化槽による個別処理の区域分けを行い、適切な役割分担に基づいて汚水処理施設整備に向けた総合的な検討を行う必要がある。

更に、下水道事業の健全な財政運営を行うため、下水道使用料を適正な水準に設定し、汚水処理に係る経費を下水道使用料で回収していくことが基本的な考え方である。令和2年度からは、地方公営企業法の適用を受け下水道事業の経営を行うため、独立採算により経営することが求められており、経費回収率100パーセントとなるよう現在の使用料の改定計画を見直す必要がある。